

育の相當なる範圍に於て之れを教化矯正することは必要である。しかも、教育の點の成功は多くの兒童を同一型に入らしむるのではなくして其の各自の個性の充分なる又正しき發輝にある。殊に幼兒教育に於て左様である。

尤も幼稚園時代は未だ個性の形成の充分確固なる時期ではない。個性の保存といふことを以て、幼稚園教育に於て個性を確立せしむるといふことに誤解されてはならない。茲にいふ意味は決してそこ迄積極的な個性發輝をいふのではない。たゞ消極的に個性壓迫、乃至個性消滅をしない様に顧慮すべきことをいふのである。しかも此ことたるや大に必要なことである。

### ○幼稚園兒童の食事に就て

長濱 宗 信 氏

大阪市の幼稚園では、兒童がお辨當を食ふ時に、早くお上がり早くお上がりと急がして、兒童がお辨當を少し許り食はうが皆んな食はふが、そんな事には無頓著であると云ふ様な扱ひ方をする先生と。お辨當は皆んな食て仕舞ふ様に仕向ける先生とがあります。此の辨當を食ふ事を急がす方では、時とすると、兒童等にお辨當の早や食を競争せしむる事となつて、誠に宜くないから、兒童がお辨當を食ふ時には受持先生は急がさないで、食物は能く咀嚼して、お辨當は皆んな食つて仕舞ふ様に仕向て貰ひたい。又大阪では子供を愛し過ぎて、既に七八歳になつて居ても其食事の時には、他から手傳てやる事が能くあります。斯んな育て方をして居る家の子供は、意氣地がなくて、何時まで経つても、上手に食事をする事が出来ないから。兒童がお辨當を食ふ時には、受持先生は能く氣を附て、上手に食ふ事の出来ない者には、其家庭にも注意し、又其兒童が上手にお辨當を食ふ様に、親切に饜けて貰ひたいと云ふのが、幼稚園の先生達に對する私の希望であります。

獨り幼稚園のみではなく、各家庭に於ても、子供が食事する時には、急がさないで、食物は能く咀嚼して食ふ様に仕向て貰ひたい、又た子供が五六歳になれば、成るべく手傳はないで、獨りで食事をする様に、饜けて貰ひたいと云ふのが私のお話の要點であります。(『兒童研究』第十七卷第十一號所載)